ぬくもり

改訂版

中学校

福岡市人権読本編集委員会編

私の愛する緑の地 カンボジア

ぼくは現在、高校一年に在学している。ぼくには、一人でも多くのみんなに伝えたいと思っていることがあるので、どうか聞いてほしい。

カンボジアと聞くと、みんなは何を思い浮かべるだろうか・・・。

アンコールワット？　ポルポト政権？　地雷？

中学二年のとき、ぼくは夏休みの宿題で、地雷について調べた。インターネットで地雷撤去（てっきょ）について調べた時、「カンボジア地雷撤去キャンペーン（CMC）」というNGO※のホームページに行き着いた。夏休みが明けて、ぼくはそこで紹介されていた、NGOが多数参加する「地球市民どんたく」というイベントに参加することにした。

ステージでは、「カンボジア地雷撤去キャンペーン」のメンバーによる「なくそう地雷悪魔の兵器」の演奏が行われていた。なぜか心地よく、とても落ち着く感じの曲だった。

たくさんのNGOが、写真を展示したりして、自分たちの活動について紹介していた。

ぼくは、「カンボジア地雷撤去キャンペーン」のところで、たくさんの写真を見て、夏休

2003地球市民どんたくステージのようす

みに調べた地雷が、初めて現実のものとして感じられた。毎年「スタディツアー」が行われていると知り、「カンボジアを自分の目で見たい。」と痛切に思った。

そして、冬休みには、それが現実のものとなった。

カンボジアスタディツアーにて

①〈カンボジアトラスト〉

一月三日、福岡国際空港からタイのバンコクへ。そこからカンボジアの首都プノンペンへ飛んだ。

最初の訪問地が、カンボジアトラスト。ここは、義足製作所兼リハビリセンターである。一つの義足を仕上げるためには、長い時間と作る人の根気が必要だ。このセンターには、リハビリに来ている人たちがたくさんいた。そこで出会った十四歳の少年は、家畜の世話をしていて、森に足を踏み入れ、地雷を踏んでしまったそうだ。義足を作ってもらえることを喜んでいた。

「一番の望みは何ですか？」

と聞くと、彼はこう答えた。

「もう一本の足だけは、無くならないでほしい。」

地　雷

②〈MAG地雷原〉

バッタンバン市内より三時間半程かかる地雷原へ。下車すると、地雷がある場所を示すドクロマークがあちこちに見られた。それを見て、踏んだらどうしようかと足が震えた。地雷には大きく分けて二種類あった。踏むことで爆発するものと、線を引っかけると爆発するものである。人々の生活の場で、大人も子どもも無差別に犠牲になっている。

言いようのない怒りがこみ上げてきた。

説明終了後、地雷撤去が終わった場所へ行った。そこで、防護服とヘルメットをつけて、地雷撤去の疑似体験をした。重くてなかなか進めなかった。こんな状態で、地雷撤去をしているのは、現地のカンボジアの人たちだそうだ。技術がある国がどうしてしないのだろう?日本では、地雷撤去車も開発されたというのに・・・。すると、NGO「カンボジア地雷撤去キャンペーン」代表の大谷さんが説明をしてくれた。

「それは、報酬のためだ。生活のためだ。彼らの生活を奪うことはできない。」

2003カンボジアスタディツアーにて
MAG地雷原を歩く中・高・大学生

③〈エマージェンシーホスピタル〉

地雷被害者の病院で、イタリアのNGOが建てたものである。被害者の方は安静が必要なので、病院全体が静かだった。最初、ぼくたちが病院にはいると、地雷被害を受けた人たちが、緊張した目でこっちを見ていた。でも、いっしょに記念写真を撮るときには、輝く笑顔に変わっていた。地雷のために身体の一部を失っても懸命に生きている人たちがいる。

地雷によって右足を奪われた少年

④〈モンドルバイ村〉

アンコールワットのすぐ近くにあるのだが、地雷被害によって体に障がいのある人たちが観光客の目に触れないよう、この村にかたまって住まわされている。そして、そのことでこの村全体はまわりから偏見で見られているそうだ。

どうしてそうなるのだろうか？

彼らが何かしたのだろうか？

いや、何もしてはいない。それどころか、彼らは深く、深く、三度も傷ついている。一度目は戦争によって、二度目は地雷によって、そして三度目は差別によって・・・。

ここでは小学校を訪問した。ここは、教室と先生が足りないために三年生で卒業である。その子どもたちが全員で、温かく出迎えてくれた。初めて会ったというのに、自分の弟、妹のような親しみを感じた。授業参観をした。先生が質問すると、どんどん手が挙がっていった。写真を撮ると、きらきらした笑顔を見せてくれた。

水牛でのんびりと行くカンボジアの緑の大地

カンボジアにはアンコールワット以外にも、長い歴史を誇るクメール文化があり、すばらしい影絵や染織の技術があり、緑の大地がある。この国に地雷さえなければ、人々はもっと安心して大地を踏みしめ、国の再建のため一生懸命になることができるだろう。

帰国してぼくが行動したこと、その中には、「カンボジア地雷撤去キャンペーン」のメンバーと共におこなった街頭募金がある。大勢の道行く人々に声をかけ、「百円で、一平方メートルの地雷原がきれいになる」ことを訴えたのだが、最初は

プノンペン郊外の小学校の生徒たち

恥ずかしく感じた。でも、仲間と一緒だからできたと思う。

それから、高校の文化祭で、ぼくがカンボジアで撮った写真の展示をおこなったこと。これも、クラスで企画について話し合った時、ぼくの考えに賛同し、協力してくれたクラスメイトのおかげだ。全校生徒には放送で二つのことを呼びかけた。一つはカンボジアの文化や自然のこと。そしてもうひとつは今も起こりつづけている地雷による被害や、地雷撤去や義足づくりに打ち込む人々のこと。見に来てくれる人たちには、どうしてもこの二つを伝えたかったのだ。

地雷のない社会をつくるために何かぼくにできることがあるのなら、これからも続けていきたい。

※NGO
Non-Governmental Organization の略称。本来、国連の経済社会理事会に対し、協議資格を持つ民間団体を指す。しかし今日では、地球的視野の問題解決に、非政府・非営利の立場で取り組んでいる市民主導の組織を一般に、NGOと総称している。

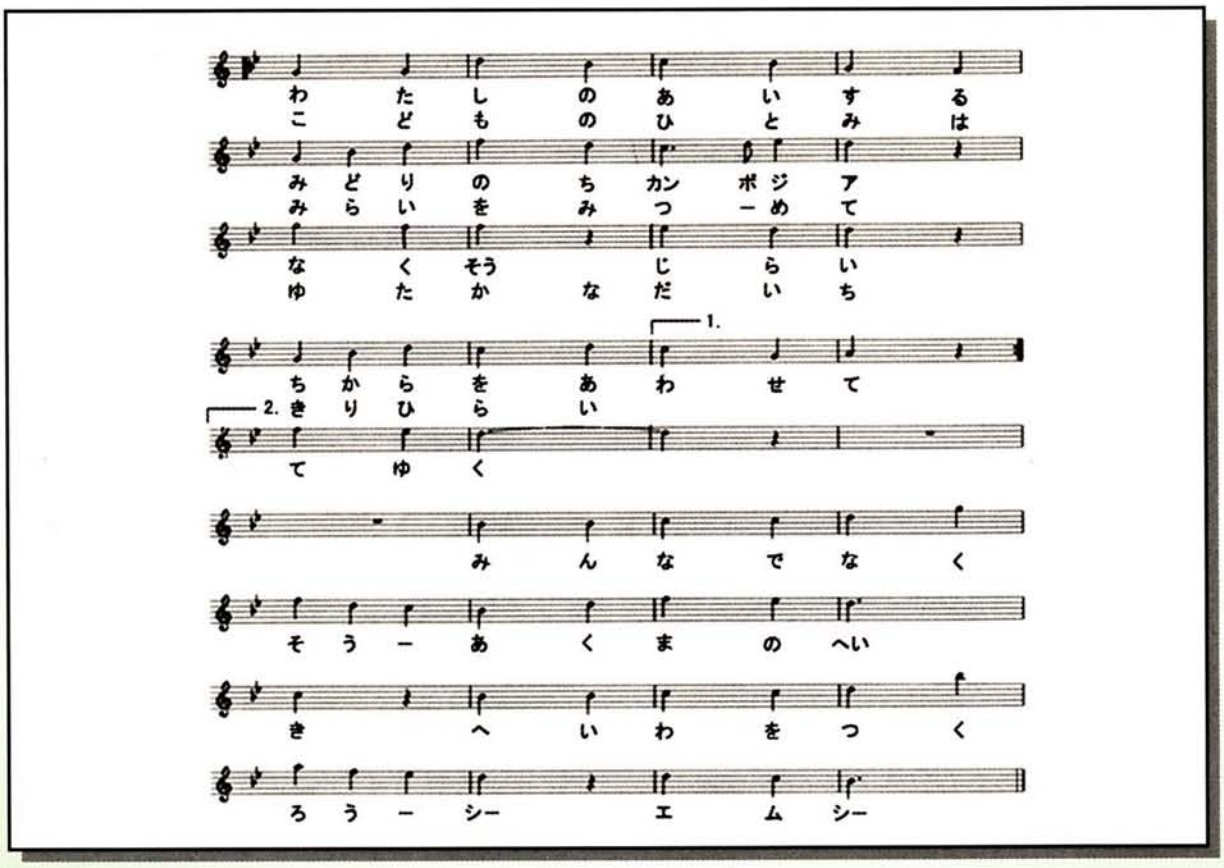
「なくそう地雷　悪魔の兵器」

作詞　大谷賢二　　作曲　古川純平

私の愛する　緑の地カンボジア
なくそう地雷　力を合わせて
子どもの瞳は　未来を見つめて
豊かな大地　切り拓いてゆく
みんなで無くそう　悪魔の兵器
平和をつくろう　ＣＭＣ

みんなの愛する　緑の地カンボジア
なくそう地雷　心を合わせて
豊かな大地を　耕して
みんなで楽しく暮らそうよ
みんなで無くそう　悪魔の兵器
平和を築こう　ＣＭＣ

注：ＣＭＣ（Cambodia Mines-remove Campaign　カンボジア地雷撤去キャンペーン）



日本音楽著作権協会（出）許諾第0502423－501号

カンボジアの文化にふれよう！

クイズ　これは,いったい何でしょう?

クイズ1

伝統文化「影絵」の人形です。
ある動物の皮でできています。
その動物とは何でしょう?

クイズ2

「ゴオクショール」というものです。
家庭で使うものです。
何に使うのでしょう?

クイズ3

この糸は何からできたのでしょう?

クイズ4

これは、家庭の台所に
あるものです。いったい何でしょう?